

治安情報 2012 年 第 2 四半期報告書

対象地域	フランス リヨン (及びローヌアルプ州)	在リヨン出張駐在官事務所 リヨン日本人会治安情報収集チーム	
		作成日	対象期間
調査方法 新聞 サイト	プログレ紙 仏警視庁 HP	2012 年 6 月 30 日	2012 年 3 月～6 月
集計情報の流布	未	在留邦人対象に各団体及び在リヨン出張駐在官事務所ルート	
調査項目：			

報告要旨

- I. **ローヌ県で防犯カメラ設置台数が増加**

- II. **自らの財産を守るためのアドバイス (2012 年第 1 四半期報告書の続き)**

- III. **公衆衛生：予防接種**

I. ローヌ県で防犯カメラ設置台数が増加

防犯カメラは、気が付かないうちに私たちの日常生活にしっかりと入り込んだ。通り、通勤バスの中、商店、会社、学校の前、駐車場など、ありとあらゆる場所に設置されている。設置要求はますます高まる一方だ。ローヌ県もその例に漏れない。設置場所および設置台数に関する正確な数値は確認されていないが、例えばリヨンでは、9月の設置台数が238台だったのに対し、今日ではリヨン8区に7台が追加され計245台となっている。目標台数は300台だ。

Oulin には年末までに18台、Rillieux-la-Pape には翌月に5台が追加される予定だ。また、Genay にも5~6台の防犯カメラが導入されることになっている。2000年に防犯カメラの設置をスタートした Villefranche-sur-Saône は新たな設置計画を展開している。Brignais でも、とうとう防犯カメラの導入に踏み切ろうとしている。Villeurbanne は、この措置に反対する数少ない市町村のひとつだ。

ところで、防犯カメラは実際に効果があるのだろうか。警察力はこの疑問に肯定的に答えている。このシステム（公共・民間を含む）と現場パトロールの強化のお陰で、現行犯逮捕の件数が増加しているためだ。

防犯カメラには抑止効果がある。しかし完全に犯行を防ぐことはできない。また、映像を100%利用できるとは限らない。リヨンでは、この防犯カメラ設置に関して、その効果と費用を比較したコスト効率の評価が依頼された。この調査の結果は2014年まで待たなければならない。

（以上プログレ紙、4月17日付）

II. 自らの財産を守るためのアドバイス（2012年第1四半期報告書の続き）

路上に駐車する場合

外から見えるように車内に物品を置いたままにすると、車内盗難のリスクが高まる。以下に挙げるようなちょっとした配慮でこの種の盗難を避けることができます。

- ✓ 街灯のある場所など、できるだけ明るいところに車を止める。
- ✓ 駐車してエンジンを止めた後、ハンドルロック（イグニッションキーを抜いた状態でハンドルを左右どちらかに回してハンドルをロック）して、窓ガラスやドア、トランクルームが閉まっていることを確認する（**ご注意：ハンドルロックした場合、再び車を始動させる際にハンドルロックを解除しないとステアリングは不可能です。ハンドルロックを解除するには、イグニッションキーを差し込んで少し回しながら同時にハンドルを左右どちらかに回してください。**）。
- ✓ 携帯電話、カメラ、書類、衣類など、盗まれやすい物品は車内に残さず持ち出す。
- ✓ 車検証（carte grise）など車に関する重要書類を車内に置いておかない。
- ✓ カーオーディオ：本体の取り外しが可能な場合は必ず持ち出すこと。そうでなければ

ば着脱式ディスプレイパネルを取り外す。

- ✓ エンジン始動のためのキー（暗証番号）をメモした紙を車内に置いておかない。
- ✓ 車両盗難防止システム（カットアウトスイッチ、窓ガラス刻印など）を装備する。

防犯アラーム

- ✓ アラームを装備する前に自動車保険会社に相談する。
- ✓ アラーム取付業者に、認定を受けたアラームの設置を要求すること。

走行中

- ✓ 他の車に追突された場合は、たとえ軽い衝撃でもエンジンを止めてイグニッションキーを抜いてから車を降りること。供述調書を作成する場合はできるだけ人通りの多い場所を選ぶこと。
- ✓ ちょっとした買い物や、人の送り迎えなど、ほんの数分間車から離れる場合もイグニッションキーを持って出ること。
- ✓ 道路上で停車中に他人が道を尋ねてきたりした場合は、窓ガラスをほんの少し下げる程度にして答えること。

車を売る場合

- ✓ 購入者に対して、できれば銀行小切手（chèque de banque）で支払ってもらう。
- ✓ 購入者から連絡先電話番号をもらった場合、念のため France Télécom（フランス電信電話局）に問い合わせて公衆電話の番号でないことを確かめる。
- ✓ 車を試運転する場合は、購入者が単独で車を運転しないようにする。運転席を離れる際にイグニッションキーを保持する。
- ✓ 車を売ることになった場合、車検証に二重取消線を描き、「Vendu le...」（販売日：）と記入する。販売日、購入者の氏名および住所を記載した自動車譲渡証明書を手検証管轄の県庁に送付する。

車を盗まれた場合

- 中央警察署（Commissariat Central）または最寄の警察署に直接出向いて盗難届（Déclaration de vol）を出す。
- 2 営業日以内に受取証明付郵便書留で自動車保険会社に盗難を申告する。
- 車検証を発行した県庁に車両差し止めを申請する。
- 遠隔操作で可能な場合にはイモビライザーキーを変更してもらう。
- 車を発見した場合、車両を識別するもの（製造銘板など）が盗まれていないことを確認し、車両に触れることを避けて警察に連絡すること。

（以上、仏警視庁 HP）

III. 公衆衛生：予防接種

欧州予防接種週間第4回フランス会議で、フランス国内の青少年および成人の若者における予防接種率の低さが指摘された。

1. 予防接種の原理：病原体や毒素の力を弱めて作った薬液（ワクチン）を接種することで体内に抗体を作り出し、免疫力をつけるもので、実際に感染が起こった場合に、体が反応して発病を防ぐことができる。ワクチン注射による保護力は一生続くものもあれば、定期接種が必要なものもある。1回の接種により4種類の病気を防ぐことができる。ワクチンが原因といわれる副反応については、安全性および効果の面で近年大幅な進歩が見られる。
2. 接種率：年齢が進むほど接種率が低く、特に青少年および成人の若者においてこの傾向が著しい。成人の若者については、子供ができた場合に乳児に感染する可能性が高い。
接種率はこのように年齢、および感染症の種類によって異なる。百日咳の接種率は青少年の80%を占める一方、パピローマウイルス（ヒト乳頭腫）の予防接種を受けた14歳の子女はわずか30%だ。また、昨年、ローヌ＝アルプ地方で麻疹による死亡者が出ている。
3. 若年層は、その生活様式や活動（集団生活、性行為など）から感染のリスクが高い。ところが、この年齢はまた定期接種を忘れてしまう傾向がある。

予防接種手帳は無料

予防接種手帳を持っていない場合、公衆衛生センターで無料で配布している（電話番号：Givors [0437201405]、リヨン [047271276]、Vaulx-en-Velin [0478809812]、Vénissieux [0472500868]、Villefranche [0474650270]、Villeurbanne [0478683960]）。予防接種は、主治医の他、ローヌ県所管のPMI（Protection Maternelle et Infantile：母子保護センター）でも行っている。

（以上、プログレ紙4月24日付）

VI. 公衆衛生：ヒトスジシマ蚊の発生

6月25日月曜日、サンテティエンヌ市郊外にあるLa Valla en Gier市の住人よりロワール県ではまだその生息が公式に認められていないヒトスジシマ蚊を捕獲したとの連絡が寄せられた。このヒトスジシマ蚊は現在ワクチンが存在しないデング熱等の感染症を媒介しうることによって有名だが、ARS（Agence Régionale de Santé 州保健衛生事務所）は、地域に多数設置された蚊捕獲ポイントで定期的な監視が行われているので心配するには至らない、としているものの、住空間での蚊の発生を避けるために庭やベランダ等に溜め水を作らないこと、また虫よけの利用や肌の露出を少なくした服を着る等して、なるべく蚊に刺されないよう注意するようアドバイスしている。（プログレ紙6月27日付）